

証券コード：7157



LIFENET

LIFENET INSURANCE COMPANY

2020年度 第2四半期 決算説明資料

ライフネット生命保険株式会社

2020年11月11日

ライフネット生命とは



正直に
わかりやすく、
安くて、便利に。

- 相互扶助という生命保険の**原点を忘れない**
- お客さま一人ひとりの生き方を応援する

2020年度上半期の主な実績

保有契約年換算保険料¹

17,234百万円

(前年度末比111.1%)

新契約年換算保険料¹

2,158百万円

(前年同期比133.5%)

EEV² (ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー)

91,275百万円

(前年度末比124.3%)

修正EV増加額³

4,496百万円

(前年同期比329.2%)

主な取組み

- 海外公募増資により、成長資本を調達
- コンタクトセンターとウェブサイトが最高評価
業界最多記録を更新⁴

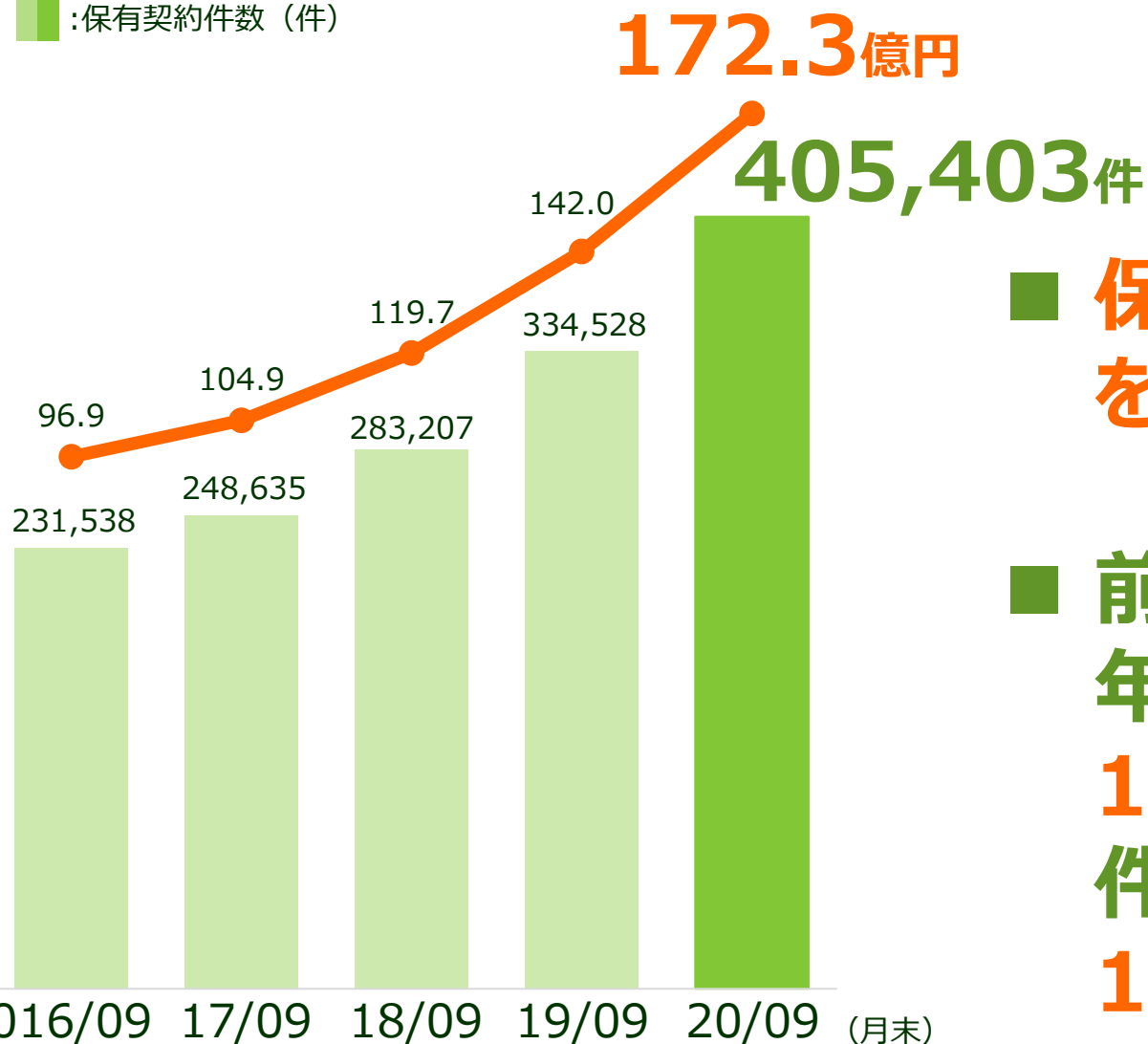


1. 年換算保険料は、1回当たりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年当たりの保険料に換算した金額。当社商品はすべて月払いのため、月額保険料×12として算出
2. 2020年9月末のEEVは、2020年6月末の前提条件をアップデートして計算し、第三者の検証は受けていない
3. 修正EV増加額は、EEVの増加額のうち、当社の期間業績の成長を適切に表す要素で構成。詳細は13ページ及び33ページを参照
4. HDI-Japanが主催する、2020年「HDI格付けベンチマーク公開格付け調査（生命保険業界）」

保有契約年換算保険料/件数

— : 保有契約年換算保険料¹ (億円)

■ : 保有契約件数 (件)



■ 保有契約40万件を突破

■ 前年同期末比
年換算保険料
121.4%
件数
121.2%

1. 1回当たりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年当たりの保険料に換算した金額。当社商品はすべて月払いのため、月額保険料×12として算出

保有契約の内訳

■ 解約失効率が前年同期比で改善

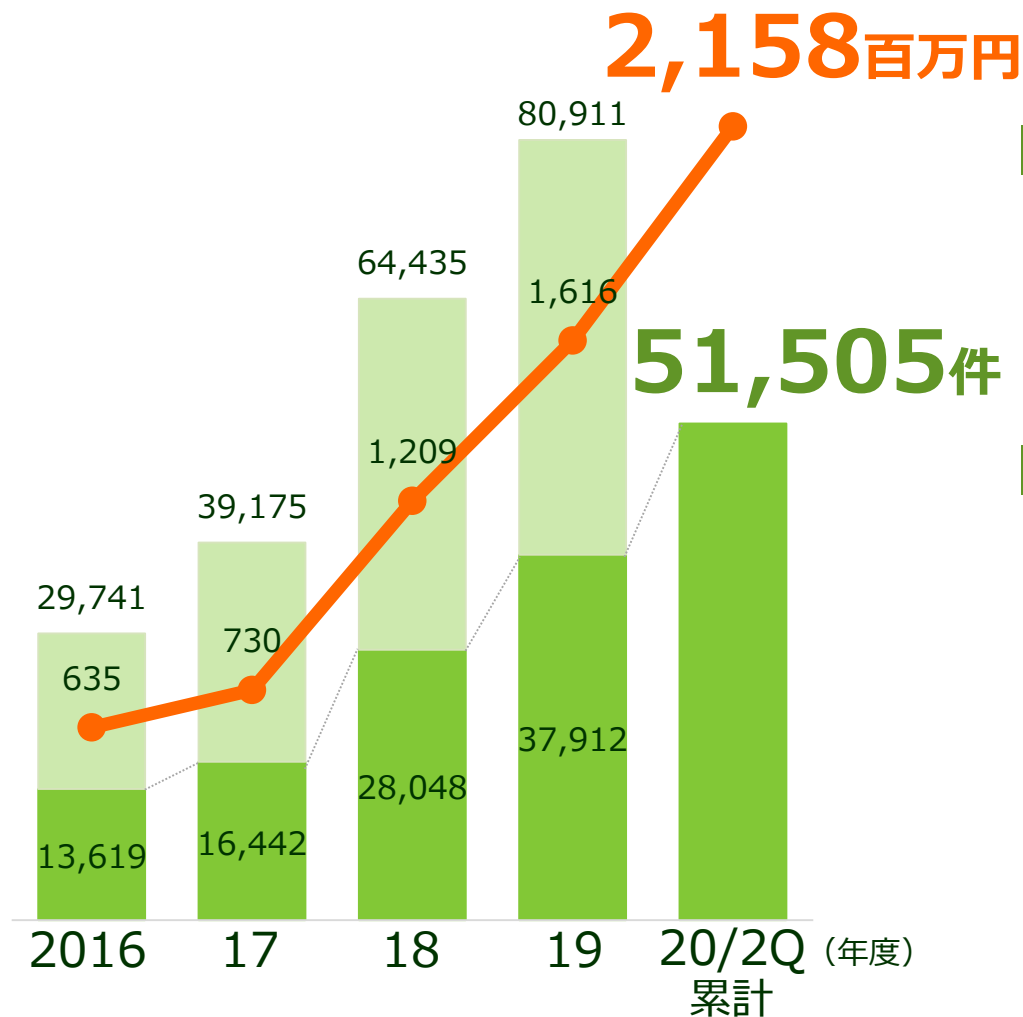
	20/03	20/09	構成比
保有契約件数	365,171件	405,403件	100%
内訳：定期死亡保険	175,713件	195,656件	48%
内訳：終身医療保険	100,280件	111,386件	27%
内訳：定期療養保険	9,105件	9,006件	2%
内訳：就業不能保険	54,665件	57,526件	14%
内訳：がん保険	25,408件	31,829件	8%
保有契約金額(保有契約高) ¹ (百万円)	2,565,269	2,800,116	
保有契約者数	232,537人	257,426人	
	19/1H	20/1H	
解約失効率(年換算) ²	7.3%	5.5%	

1. 保有契約金額は死亡保障額の合計であり、第三分野保険（医療保障・生前給付保障等）の保障額を含まない

2. 解約失効率は、解約・失効の件数を月々の保有契約件数の平均で除した比率を年換算した数値

新契約年換算保険料/件数

- :新契約年換算保険料¹ (2Q累計) (百万円)
- :新契約件数(通期) (件)
- :新契約件数(2Q累計) (件)



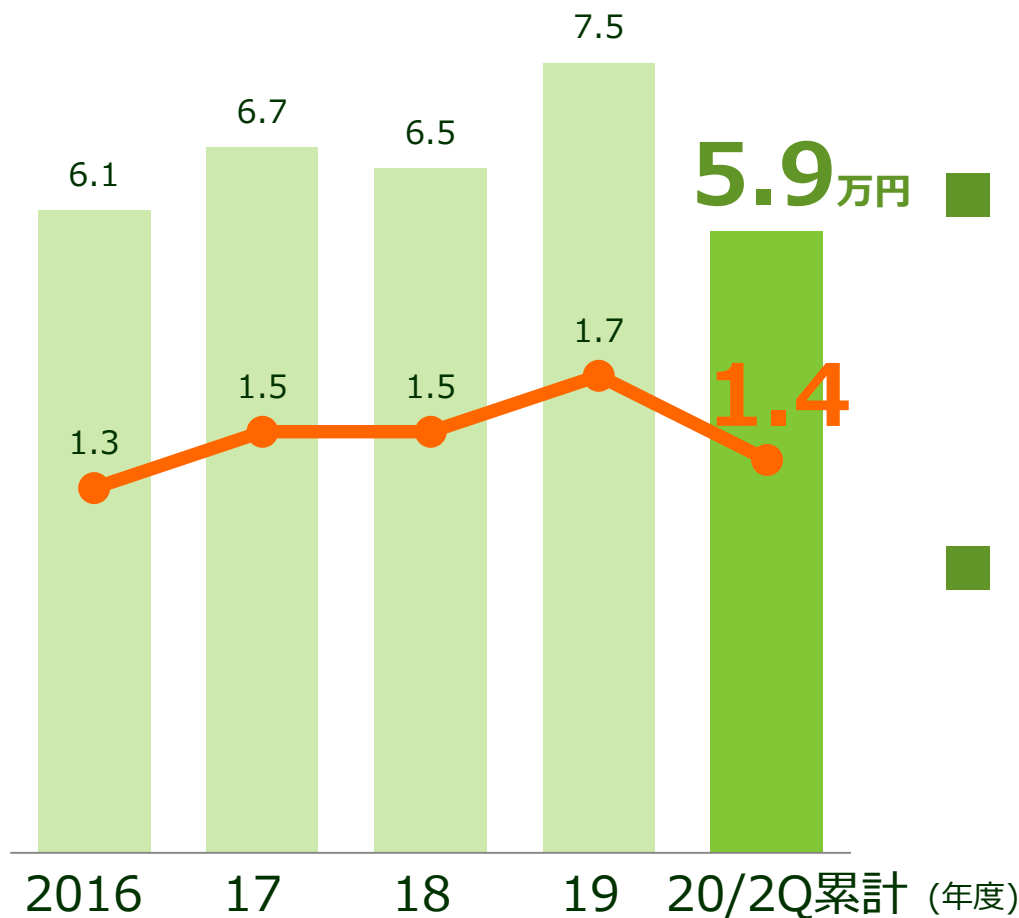
■ 半期での**過去最高業績**を達成

■ 前年同期比
年換算保険料
133.5%
件数
135.9%

1. 1回当たりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年当たりの保険料に換算した金額。当社商品はすべて月払いのため、月額保険料×12として算出

営業費用効率

■:新契約1件当たり営業費用(万円)
 ■:営業費用/新契約年換算保険料¹



■ **新型コロナウイルスの影響等により、効率改善**

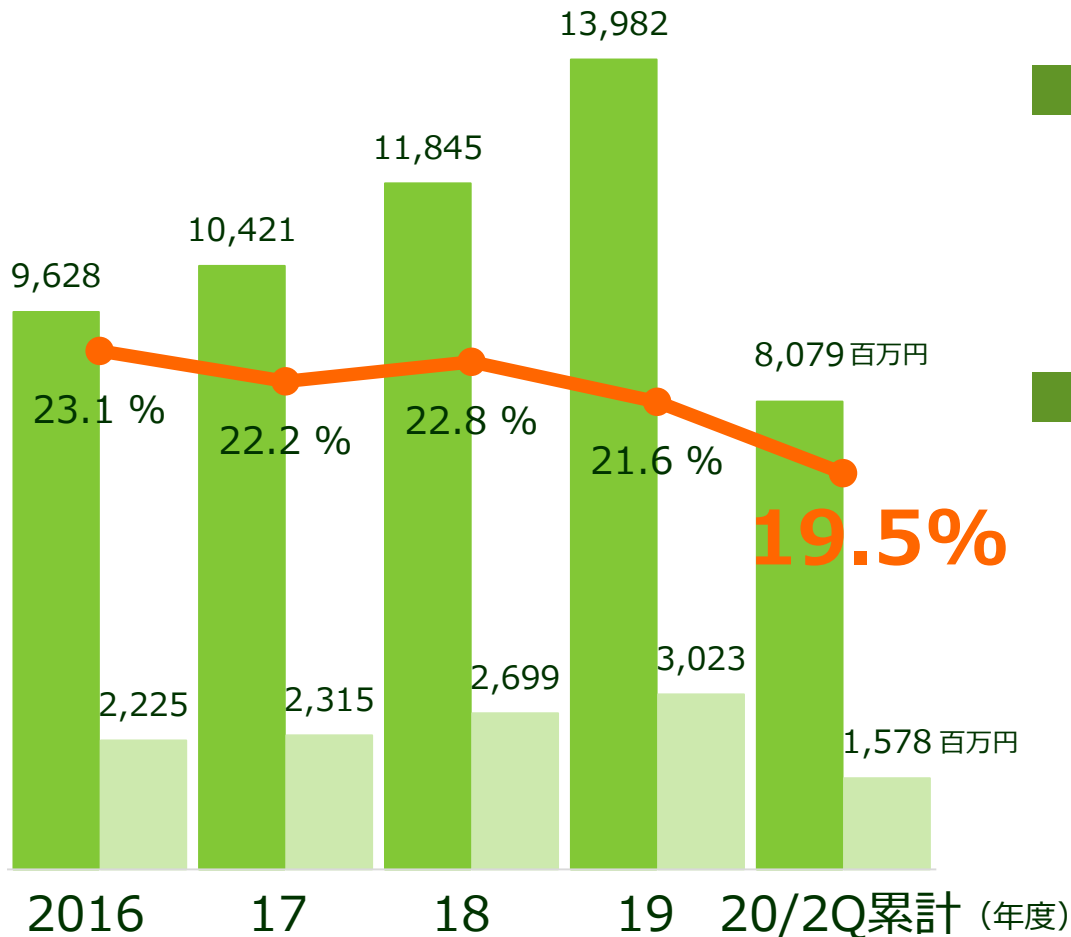
■ **下半期の営業費用のさらなる投下は、事業環境を踏まえて判断**

営業費用(百万円)	2016	17	18	19	20/2Q累計
	1,822	2,627	4,216	6,146	3,054

1. 1回当たりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年当たりの保険料に換算した金額。当社商品はすべて月払いのため、月額保険料×12として算出

営業費用を除く事業費率

- : 営業費用を除く事業費率¹(%)
- : 保険料収入(百万円)
- : 営業費用を除く事業費(百万円)



■ 保有契約の成長に伴い改善

■ 規模の拡大及び業務効率化により、中期的に改善を目指す

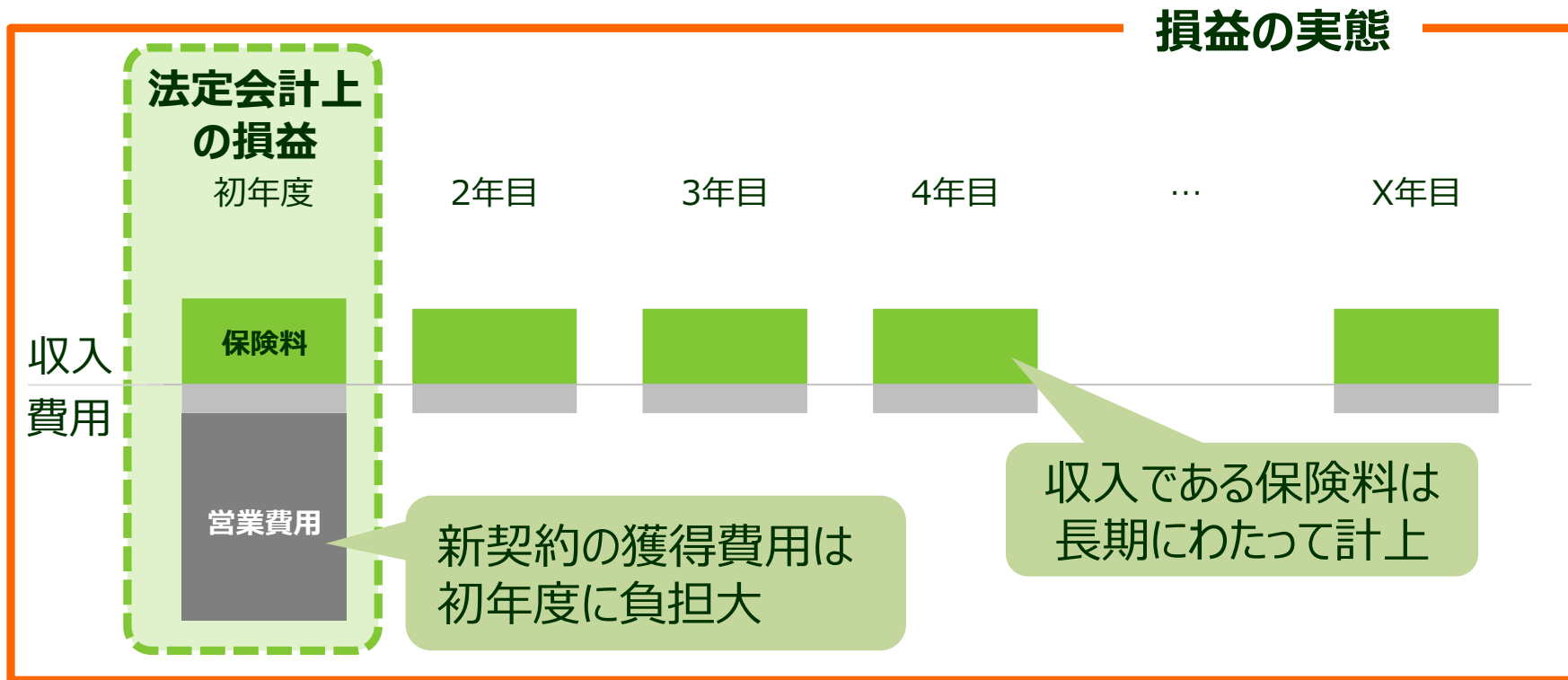
1. 営業費用を除く事業費を保険料で除した割合

現行法定会計の収益構造

- 獲得費用は初年度に計上するものの、収入は長期にわたり計上し、**収入と費用の発生時期が異なる構造**

イメージ：新契約1件の損益構造

■ : 保険料 ■ : 営業費用以外の事業費¹
■ : 営業費用



1. 契約の管理や保険金・給付金の支払いにかかる費用など

修正利益の推移

■ 保有契約から生じる利益を**着実に計上**

修正利益の計算式

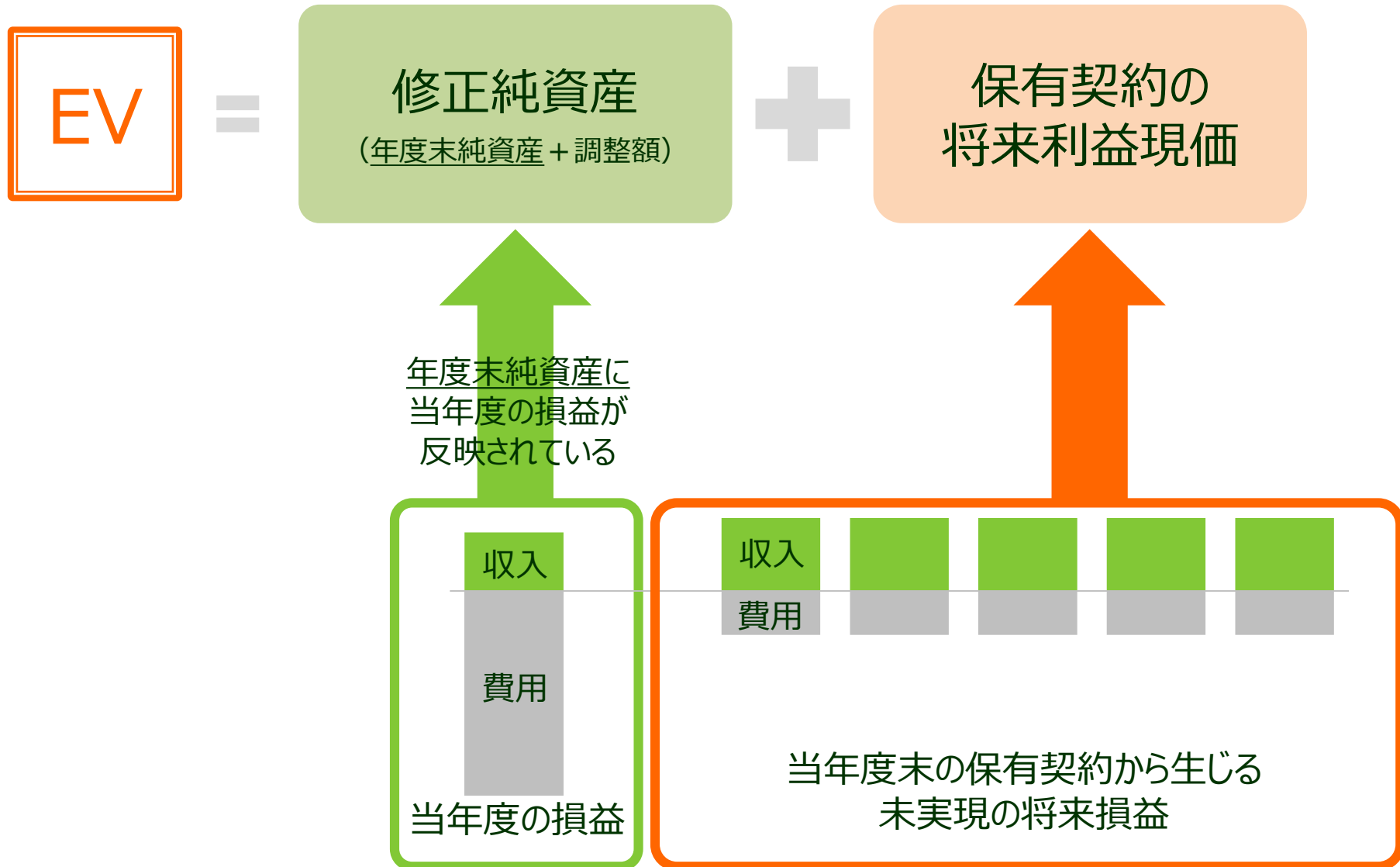
修正利益 = ①経常利益¹ + ②営業費用 - ③修正共同保険式 ±④標準責任準備金ベースへの調整額²
再保険の影響額

百万円 / 年度	2016	2017	2018	2019	2020/1H
①経常利益	88	△197	△1,719	△2,382	△1,128
②営業費用	1,822	2,627	4,216	6,146	3,054
③再保険の影響額	-	-	-	△1,526	△360
④調整額	543	319	347	546	390
修正利益	2,454	2,748	2,844	2,784	1,956

1. 2016年度は、保険業法第113条繰延資産を考慮する前の経常利益

2. 責任準備金繰入額の調整額は、危険準備金の繰入の影響額の除外および保険料積立金の積立方式の標準責任準備金への修正による調整額

EV（エンベディッド・バリュー）の構造



■ 当社のEEVの特長は次のとおり

力強い成長

- 2012年3月の上場以来、増加を継続
- 低金利環境下においても安定的に成長

金利変動への耐性

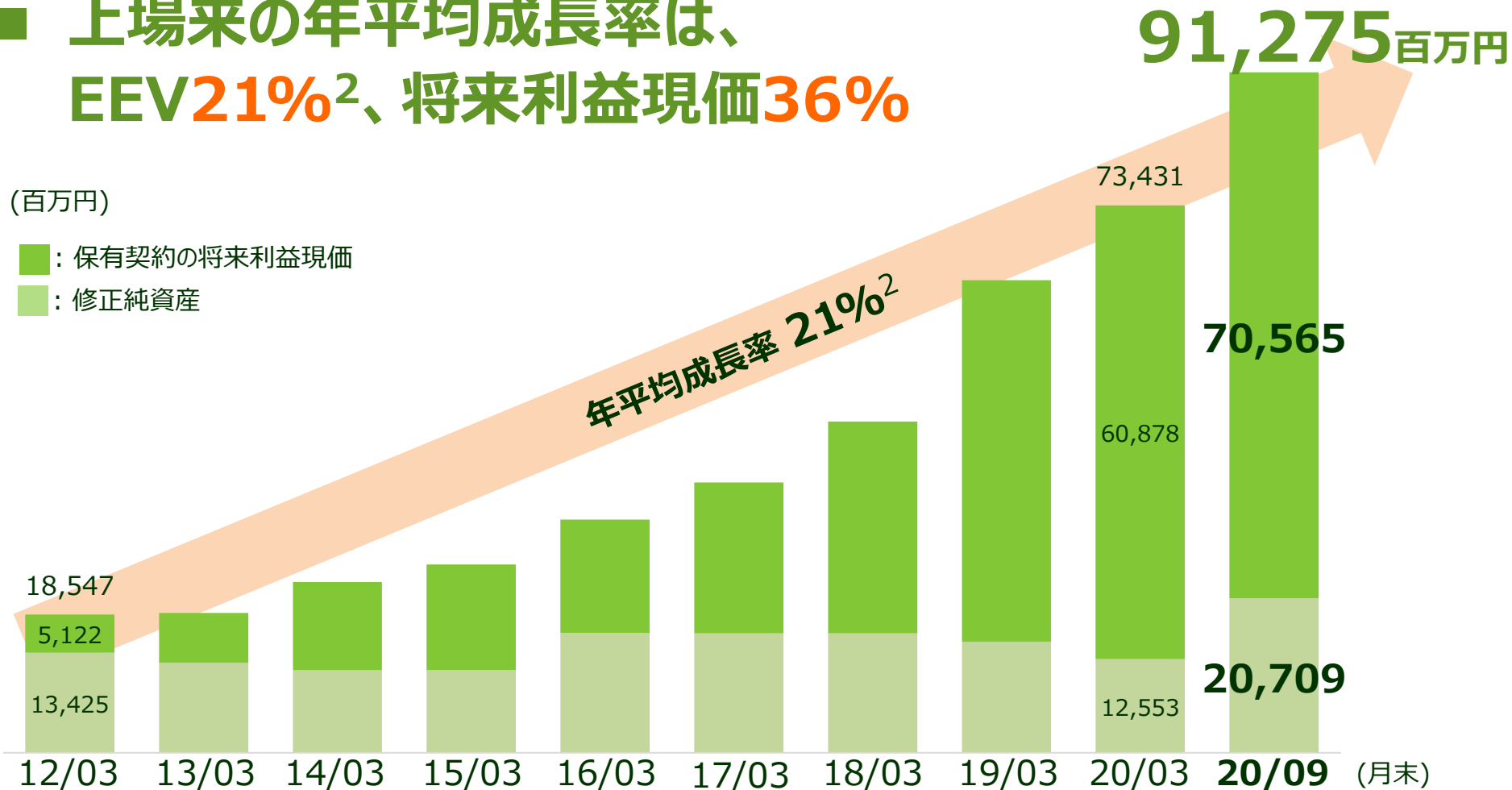
- 金利・株価の変動に対する感応度は限定的

EEV¹の力強い成長を実現

- 7月の海外公募増資により、修正純資産が増加
- 上場来の年平均成長率は、EEV²21%²、将来利益現価36%

(百万円)

- : 保有契約の将来利益現価
- : 修正純資産

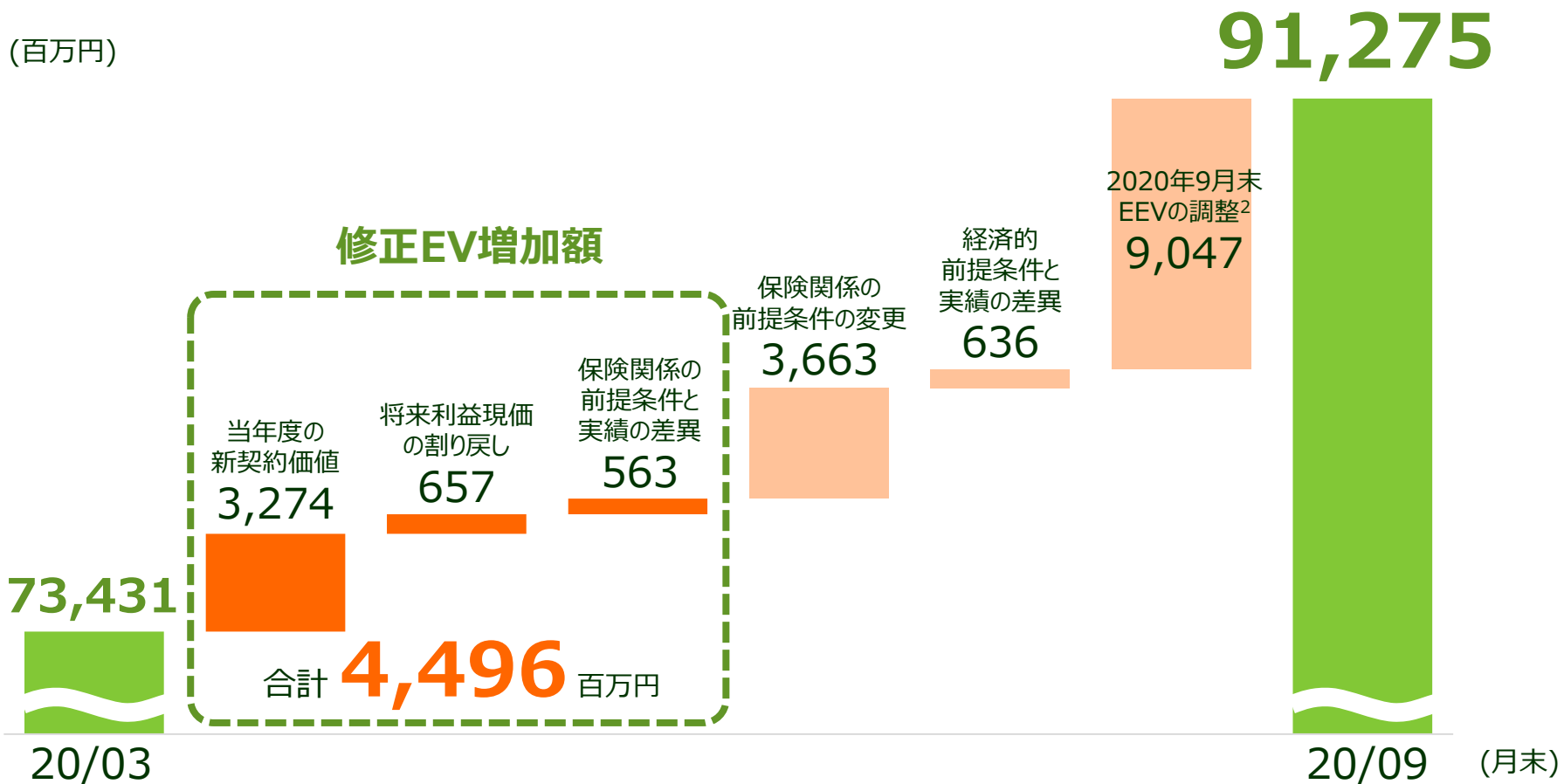


1. 当社では、EVの算出に当たって、EEV原則に従っているが、リスクの反映方法などについては部分的にMCEV（市場整合的エンベディッド・バリュー）原則を参考にしている。2016年度より、超長期の金利水準について、終局金利を用いた方法を適用。2015年度末におけるEEVについても同様の評価により再評価。また、2020年9月末のEEVは、2020年6月末の前提条件をアップデートして計算し、第三者の検証は受けていない
2. 2015年5月の第三者割当増資額30億4,000万円、2020年7月の海外公募増資による資本調達額90億542万円を含み算出

EEV¹の変動要因分析

■ 好調な新契約業績、事業費率等の改善及び、資金調達により大きく増加

(百万円)

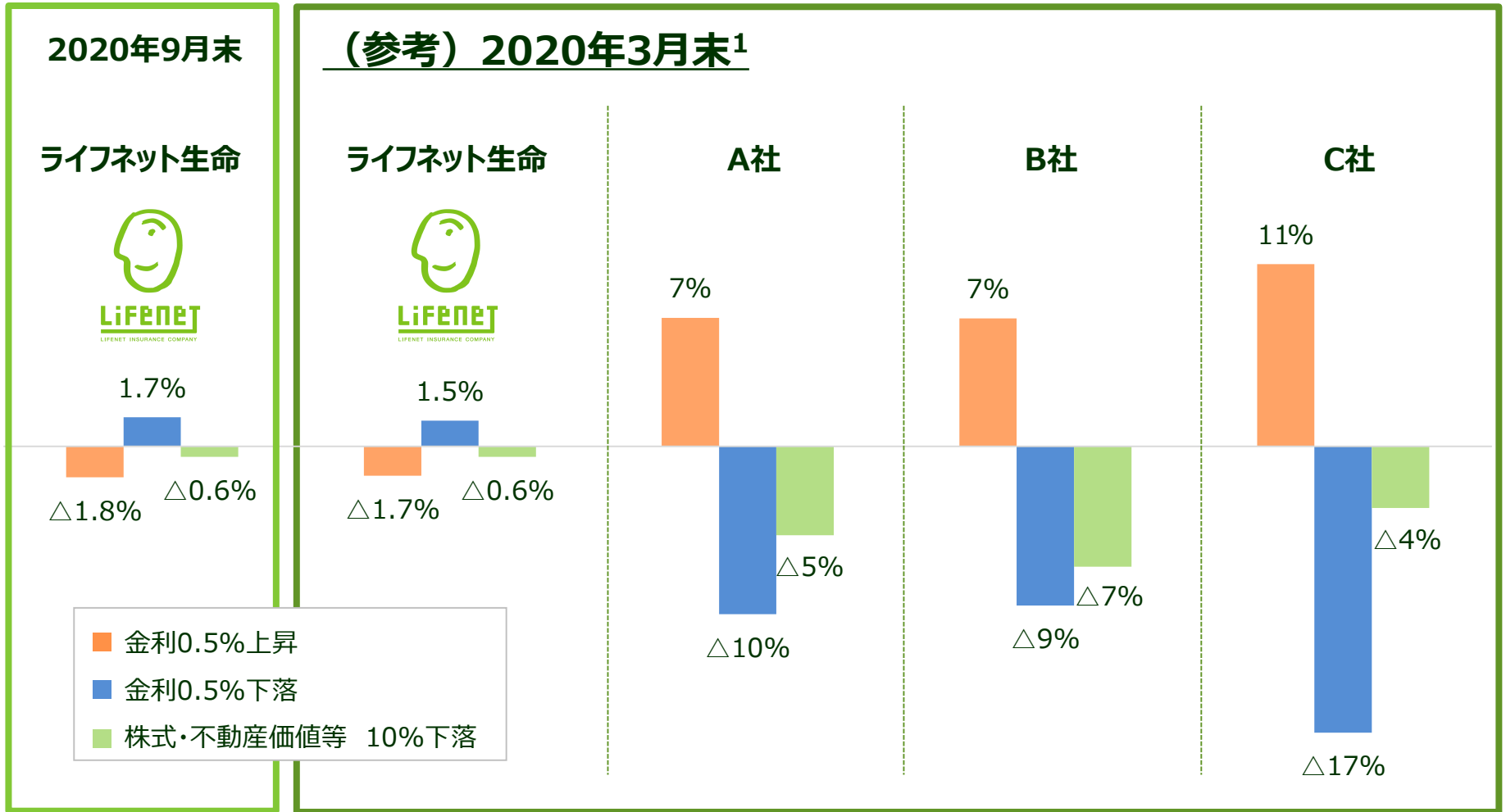


1. 当社では、EVの算出に当たって、EEV原則に従っているが、リスクの反映方法などについては部分的にMCEV（市場整合的エンベディッド・バリュー）原則を参考にしている。また、2020年9月末のEEVは、2020年6月末の前提条件をアップデートして計算し、第三者の検証は受けていない

2. 資本の増減による項目

EVの金利変動への耐性

■ 金利・株価の変動に対する感応度は限定的



【参考】生涯顧客価値（LTV）と顧客獲得費用（CAC）



SaaS企業の主要指標と当社のKPI



用語解説

ARR
(Annual Recurring Revenue)
契約当たり売上

- 契約1件当たりの年換算売上高

Life Time
顧客契約期間

- 顧客が契約してから解約するまでの期間（解約率の逆数で算出）

Gross Margin Rate
粗利率

- 売上高から売上原価を差し引き後の利益率

LTV
(Life Time Value)
生涯顧客価値

- 契約の開始から終結までの期間損益の累計

CAC
(Customer Acquisition Cost)
顧客獲得費用

- 顧客獲得のためのマーケティングコスト

2019年度

保有契約1件当たり年換算保険料
42,486円

×

平均保険期間
14.3年¹

×

45%²

||

(保有契約1件当たり年換算保険料
×平均保険期間 ×粗利率)

273,397円

1件当たり営業費用
75,970円³

2020年度上半期

保有契約1件当たり年換算保険料
42,511円

×

平均保険期間
18.2年¹

×

46%²

||

(保有契約1件当たり年換算保険料
×平均保険期間 ×粗利率)

355,902円

1件当たり営業費用
59,309円³

1. $1 \div$ 解約失効率

2. $(\text{保険料} - \text{保険金} \cdot \text{給付金等の支払金} - \text{責任準備金等繰入額}) \div \text{保険料}$

3. $\text{営業費用} \div \text{新契約件数}$

財務状況

(百万円)	20/03	20/09
総資産	41,144	52,270
現金及び預貯金	1,377	2,143
買入金銭債権	299	4,499
金銭の信託	3,539	4,734
有価証券	32,058	36,419
国債	8,065	8,632
地方債	1,391	1,388
社債	18,119	20,611
株式	313	393
外国証券	0	0
その他の証券 ¹	4,167	5,394
負債合計	31,744	34,736
保険契約準備金	30,328	33,272
純資産	9,400	17,533
ソルベンシー・マージン比率 ²	2,117%	2,957%
保有債券の修正デュレーション	11.3年	11.6年

■ ソルベンシー・マージン比率は、**2,957%**

■ 資本調達により、**純資産が増加**

1. 外国債券及び株式等を含む投資信託への投資
2. 通常の子測の範囲を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を判断するための行政監督上の指標のひとつ

ホワイトレーベル事業を拡大

■ セブン&アイグループの顧客基盤に向けて、 ホワイトレーベル商品のプロモーションを展開



ナナコ nanaco

nanaco 関連サービス

会員メニュー ログイン

メニュー

キャンペーン・メルマガ・SNS情報

「セブン・フィナンシャルサービスの生命ほけん」キャンペーン

セブン・フィナンシャルサービスの生命ほけん

もれなく! お申し込み+クレジットカード払いで
青森県産「青天の霹靂」(300g)
プレゼント!

さらに! 保険料はクレジットカード払いがおすすめ! 例えば、
セブンカード・プラス/セブンカードでお支払いいただくとポイントがたまる!
セブンカード・プラスではnanacoポイントがたまります

エントリー不要

キャンペーン期間中、「セブン・フィナンシャルサービスの生命ほけん(※1)」をクレジットカード払いでお申し込みいただいた方全員に、お米(青森県産「青天の霹靂」300g(約2合分))をもれなくプレゼント!



忙しいあなたも
じっくり考えたい人も
手元のスマホで
いつでもつながる
生命ほけん。

便利で安心、**ホッ**とする

Financial Service セブン・フィナンシャルサービスの
生命ほけん

保険募集代理店:株式会社セブン・フィナンシャルサービス



生命ほけんをもっと身近に

便利で安心、**ホッ**とする

Financial Service セブン・フィナンシャルサービスの
生命ほけん

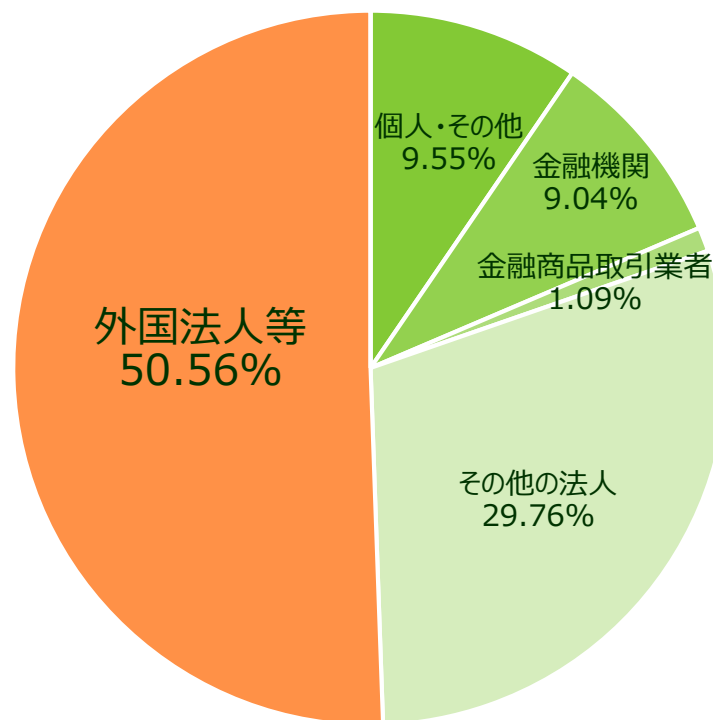
保険募集代理店:株式会社セブン・フィナンシャルサービス

海外公募増資及び売出し

■ 7月の海外公募増資により、成長資本を調達

- 新株発行と売出しを合わせた**案件総額は約138億円**
- 欧州、アジアを中心とする海外市場から**約90億円を新規調達**
- 上場前株主の売出しなどにより、**市場流動性の向上を企図**
- 海外公募増資を経て、**投資家の裾野が拡大**

2020年9月末の株主構成比率



発行済株式数：60,595,136株

外部からの高い評価

■ 生命保険業界歴代最多記録となる外部評価

HDI格付けベンチマーク公開格付け調査（生命保険業界）

- 当社の「コンタクトセンター」「ウェブサイト」が生命保険業界で歴代最多となる8回目の3つ星ダブル受賞¹
- 顧客体験の礎となる「ウェブサイト」は10年連続最高評価



PRIDE指標2020

- LGBTQなどの性的マイノリティが働きやすい職場づくりを実現することを目的としたアワードにおいて、最高評価の「ゴールド」を5年連続受賞

work with Pride



コロナ後の行動様式への適応

■ 11月から、新クリエイティブのテレビCMを投入

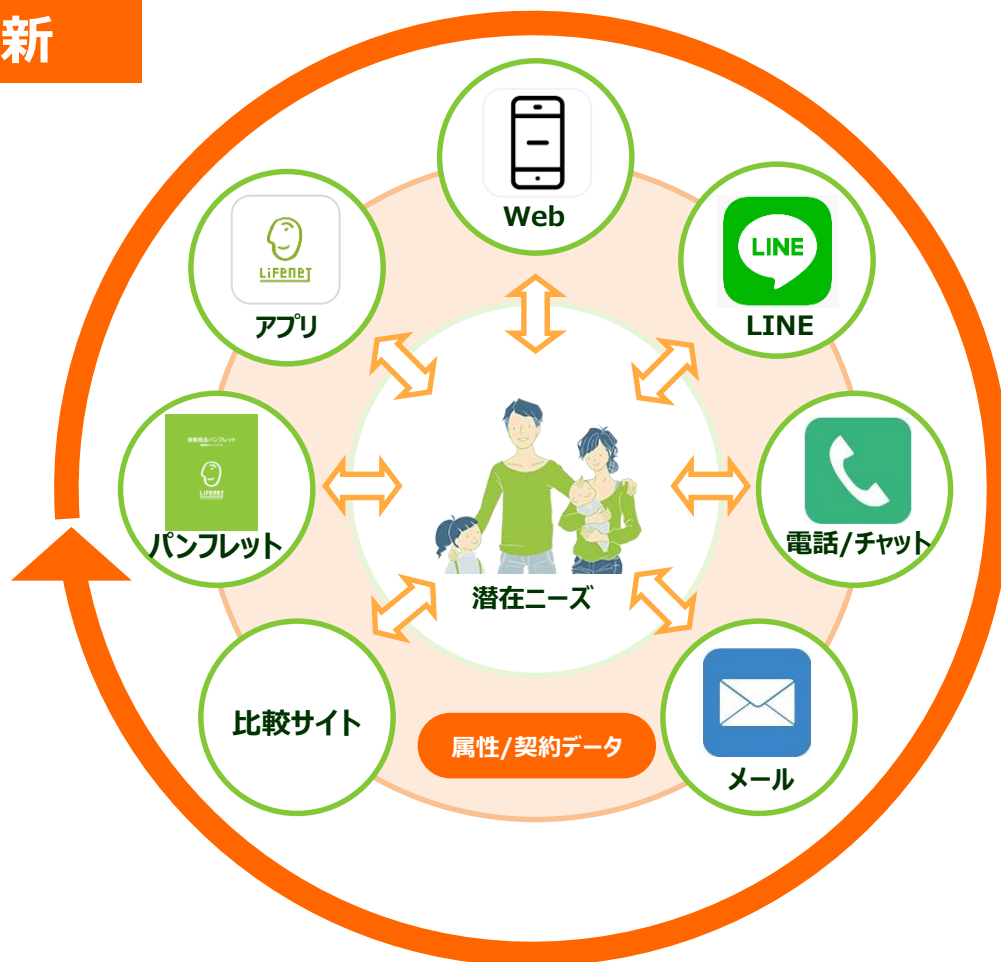
販売力の強化



顧客体験への投資

- お客さまの各行動をデータで可視化し、パーソナライズされたコミュニケーションへ進化させる

顧客体験の革新



今後の方向性

2020年度

- 新型コロナウイルスの影響で、上半期の新契約業績は大きく増加
- 一時的な揺り戻しはあるものの、「新たな生活様式」も追い風に、新契約業績の上積みを目指す
- 保有契約業績は、2桁%超の成長を実現する



早期のEEV1,000億円到達に加え、
2020年代半ばの経常損益の黒字化を目指す

2020年度業績予想

- 依然として不透明な事業環境を注視
- 従来 of 業績予想から変更なし

(百万円)

	2020年度業績予想		(参考) 2019年度実績	
		うち再保険の 影響額		うち再保険の 影響額
経常収益	20,000	2,700	16,850	2,034
経常利益	△3,200	650	△2,382	1,526
当期純利益	△3,200	650	△2,400	1,526
(参考) 新契約 年換算保険料 ¹	4,000		3,425	

1. 1回当たりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年当たりの保険料に換算した金額。当社商品はすべて月払いのため、月額保険料×12として算出

経営方針

経営理念

正直に経営し、わかりやすく、安くて便利な商品・サービスを提供することで、お客さま一人ひとりの生き方を応援する

目指す姿

オンライン生保市場の拡大を力強く牽引するリーディングカンパニー

重点領域

- **顧客体験の革新**
デジタルテクノロジーを活用し、全てのサービスを質的に高め進化させる
- **販売力の強化**
積極的プロモーション及び代理店・ホワイトレーベルの拡大により、圧倒的な集客を実現する

経営目標

EEV（ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー）を企業価値を表す重要な経営指標とし、早期の1,000億円到達を目指す

ライフネットの生命保険マニフェスト



「正直に わかりやすく、安くて、便利に。」

第1章 私たちの行動指針

- (1) 私たちは、生命保険の未来をつくる。生命保険は生活者の「ころばぬ先の杖がほしい」という希望から生まれてきたという原点を忘れずに。
- (2) 私たちは、お客さまの声に耳を傾け、お客さまに何が必要かを常に考え行動する。
- (3) 私たちは、自分たちの友人や家族に自信をもってすすめられる商品・サービスだけを届ける。
- (4) 顔の見える会社にする。私たちは、経営のこと、商品のこと、社員のこと、どんな会社なのか、正直に伝える。
- (5) 私たちは、多様性を尊重し、協力しあうことで、変化に対応しつづける。100年後もお客さまに安心を届けられる会社であるために。
- (6) 私たちは、常に誠実に行動する。コンプライアンスを遵守し、倫理を大切にします。

第3章 生命保険料を、安くする

- (1) 私たちは、保障内容を過剰にしない。必要な備えを、適正な生命保険料で提案する。
- (2) 私たちは、よい商品を安く提供するための工夫を怠らない。
- (3) 私たちは、生命保険料を抑え、その分をお客さまの人生の楽しみに使ってほしいと考える。

第2章 生命保険を、もっと、わかりやすく

- (1) 私たちは、「生命保険がわかる」情報を提供する。お客さまが自分にあった保障を納得して、選べるように。
- (2) 私たちは、誰もが読んで理解できる「約款」（保険契約書）をつくる。
- (3) 私たちは、お申し込みだけでなく、保険金・給付金を請求するときにこそ、わかりやすいと思ってもらえる商品やサービスを届ける。

第4章 生命保険を、もっと、便利に

- (1) 私たちは、ご契約の検討から保険金・給付金の受け取りまで、あらゆる場面でお客さまの便利を追求する。
- (2) 私たちは、私たちの考えに共鳴してくれたパートナーと協力して、お客さまに商品やサービスを届ける手段を増やす。
- (3) 私たちは、生命保険の枠を超えて、「生きていく」ことを支える情報とサービスに触れる機会を増やす。
- (4) 私たちは、お客さまの期待の先にある「便利な生命保険」を通して、次の時代の当たり前をつくる。

お客さま一人ひとりの生き方を応援する企業でありたい。
そのために、これからも挑戦を続けます。




本資料に記載されている計画、見通し、戦略及びその他の歴史的事実以外は、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスク及び不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。

また、本資料に記載されている当社及び当社以外の企業などに係る情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<https://ir.lifenet-seimei.co.jp/ja/>

「IRメール配信」へのご登録でニュースリリースの情報やIRサイトの更新情報を随時お届けします。

 IRメール配信

補足資料



LIFENET

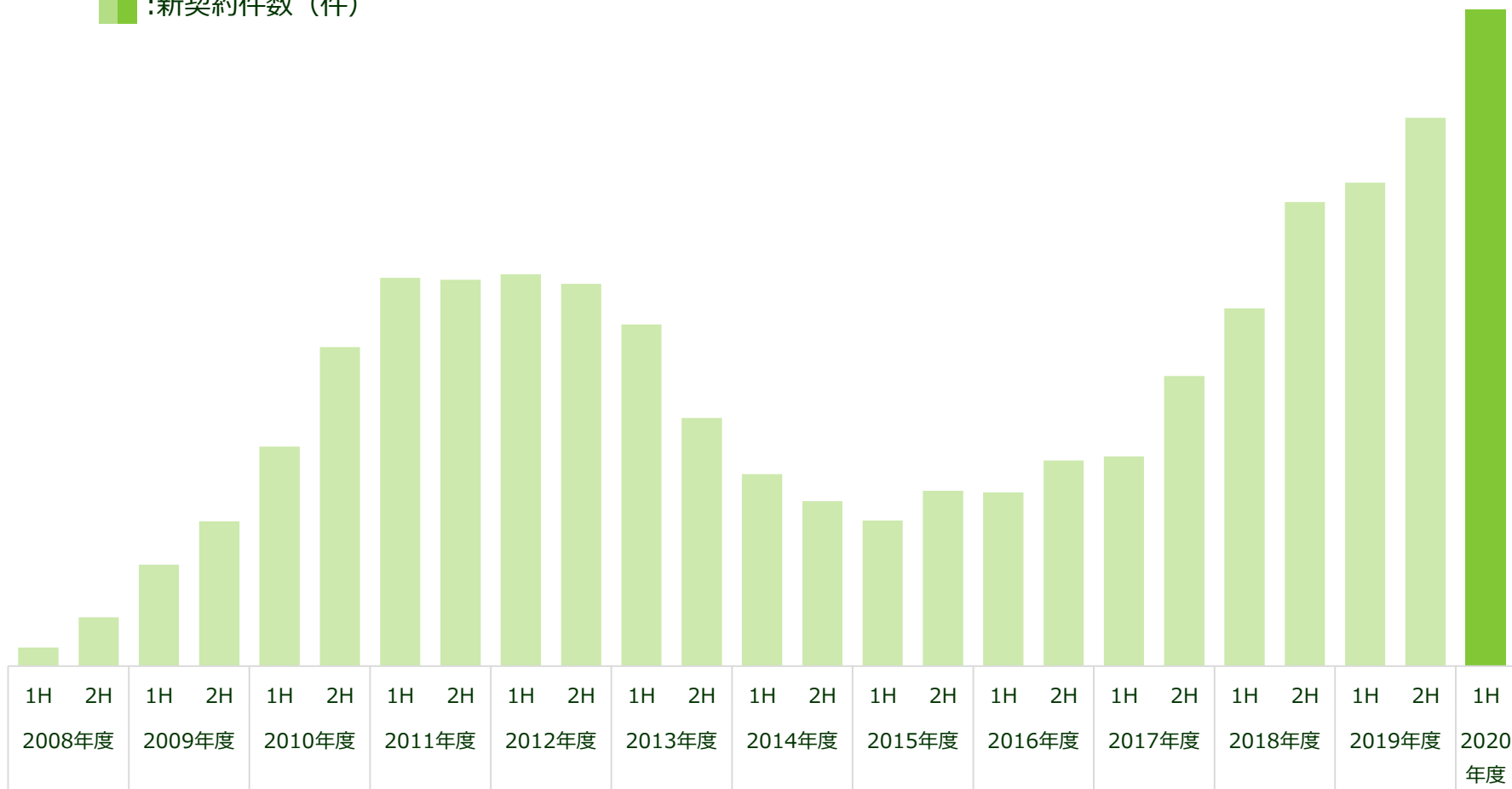
LIFENET INSURANCE COMPANY

新契約件数の推移（半期）

■ 半期ベースの過去最高業績を達成

■ :新契約件数（件）


51,505



要約損益計算書及び基礎利益

(百万円)		FY2019/1H	FY2020/1H	増減	増減理由等
要約損益計算書	保険料等収入	7,754	9,493	1,739	保有契約の伸長及び修正共同保険式再保険における再保険収入の増加
	その他	199	356	157	
	経常収益	7,953	9,849	1,896	修正共同保険式再保険の活用による1,153百万円を含む
	保険金等支払金	1,688	2,574	885	修正共同保険式再保険における再保険料の増加。保険料に対する保険金及び給付金の割合は17.5%
	保険金	832	879	47	支払件数は、59件（2019年度第2四半期累計）から81件（2020年度第2四半期累計）へ増加
	給付金	455	537	81	支払件数は、4,055件（2019年度第2四半期）から4,600件（2020年度第2四半期）へ増加
	責任準備金等繰入額	2,337	3,029	691	標準責任準備金の移行により増加。保険料に対する責任準備金繰入額（3,029百万円）の割合は37.5%
	事業費	4,604	4,633	29	
	営業費用	3,186	3,054	△132	
	保険事務費用	424	478	53	
	システム・その他費用	993	1,100	107	
	その他	537	741	203	
	経常費用	9,167	10,978	1,810	
	経常損益	△1,214	△ 1,128	86	修正共同保険式再保険の活用による360百万円の利益を含む
特別損失・法人税等合計	8	10	1		
当期純損益	△1,223	△ 1,138	84	修正共同保険式再保険の活用による360百万円の利益を含む	
基礎利益	危険差損益	1,328	1,898	570	
	費差損益	△2,580	△ 2,938	△357	修正共同保険式再保険の活用による467百万円の費差益を含む
	利差損益	20	△ 9	△29	
	基礎利益	△1,232	△ 1,049	183	

EV感応度分析¹

■ 前提条件を変更した場合の影響額

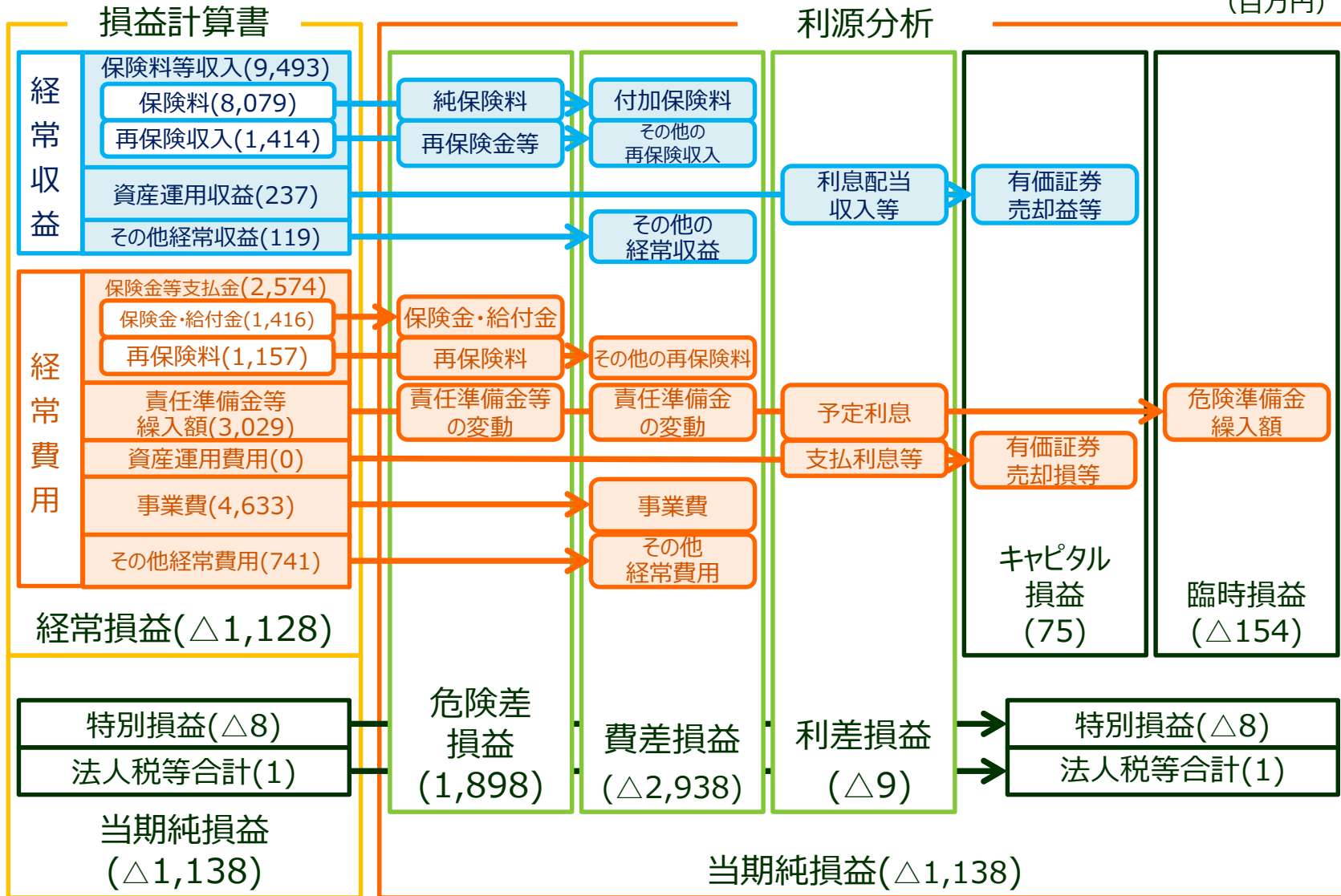
(百万円)	2020年9月末現在のEEVの変動	新契約価値の変動
2020年9月末におけるEEV及び新契約価値	91,275	3,274
感応度1a (リスクフリー・レート1.0%上昇)	△ 3,347	△ 36
感応度1b (リスクフリー・レート1.0%低下)	2,833	△ 112
感応度1c (リスクフリー・レート0.5%上昇)	△ 1,635	△ 3
感応度1d (リスクフリー・レート0.5%低下)	1,509	△ 32
感応度1e (金利に国債利回りを使用)	763	108
感応度2 (株式・不動産価値等10%下落)	△ 548	—
感応度3 (事業費率10%減少)	3,389	428
感応度4 (解約失効率10%低下)	261	29
感応度5 (生命保険の保険事故発生率5%低下)	4,246	365
感応度6 (必要資本を法定最低水準に変更)	67	7

1. 感応度は、一度に1つの前提のみを変化させることとしており、同時に2つの前提を変化させた感応度の影響は、それぞれ単独に前提を変化させた感応度を2つ合計したものと計算結果が異なる可能性がある。なお、責任準備金は日本の法令に基づいて計算されるため、各感応度計算においては、評価日時点の責任準備金は変わらない。また、新契約価値のうち、修正純資産の計算に実績を用いた部分については、感応度の結果に含めていない。なお、2020年9月末のEEVは、2020年6月末の保険関係の前提条件をアップデートして計算し、第三者の検証は受けていない

基礎利益の利源分析の図解

2020年度第2四半期累計

(百万円)



1. 金額微小の項目については、一部省略しています。

ソルベンシー・マージン比率の図解

2020年度第2四半期末

$$\text{ソルベンシー・マージン比率 } 2,957.1\% = \frac{\text{ソルベンシー・マージン総額 } (28,731)}{\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2 + R_4} \div 2} \quad (\text{百万円})$$

預貯金等 (2,143)	その他の負債 (1,117)
買入金銭債権 (4,499)	支払備金(552)
金銭の信託 (4,734)	責任準備金 (32,719)
有価証券 (36,419)	危険準備金(1,877)
	保険料積立金等 余剰部分(9,073)
	価格変動準備金(64)
	その他有価証券に係る 繰延税金負債(254) ¹
	その他有価証券 評価差額金(654) ¹
有形固定資産 (92)	資本金等 (16,806)
無形固定資産 (873)	純資産 (17,533)
その他の資産 (3,506)	

価格変動準備金
や危険準備金な
どの資本性の高い
負債を加算

保険リスク R_1 (1,130)

死亡率の変動リスク（保有契約金額に基づき計算）

第三分野の保険リスク R_8 (345)

第三分野に関する発生率（入院率など）の変動リスク

予定利率リスク R_2 (3)

責任準備金の算出の基礎となる予定利率を確保できなくなるリスク

〔最低保証リスク〕 R_7 (-)

変額年金などで最低保証のある商品に関するリスク

資産運用リスク R_3 (1,135)

【信用リスク】与信先の財務状況の悪化等により、資産価値が低下するリスク

【価格変動等リスク】株式や債券等の市場価格が下落することにより損失を被るリスク

経営管理リスク R_4 (78)

他の5つのリスクの金額の合計の3%（当社の場合）

1. その他有価証券評価差額金・繰延ヘッジ損益（税効果控除前）（90%又は100%）

2. 当社で該当するものがない項目や金額が微少な項目については、一部〔 〕で囲んで表記しているものを除き、省略しています。

修正EV増加額

- EEVの増加額のうち、当社の**期間業績の成長**を適切に表す指標

修正EV増加額

以下の要素で構成したものとして定義

- 当年度の新契約価値
- 将来利益現価の割り戻し
- 保険関係の前提条件と実績の差異

「修正利益」開示の意義

- 収入と費用の発生時期が異なるため、法定会計上の経常損益は実質的な期間損益を表していない
- 経常損益から、発生時期が収入とは異なる営業費用を除き、修正共同保険式再保険の効果、責任準備金の水準を調整し、保有契約から生じる利益を示す指標として開示

修正利益

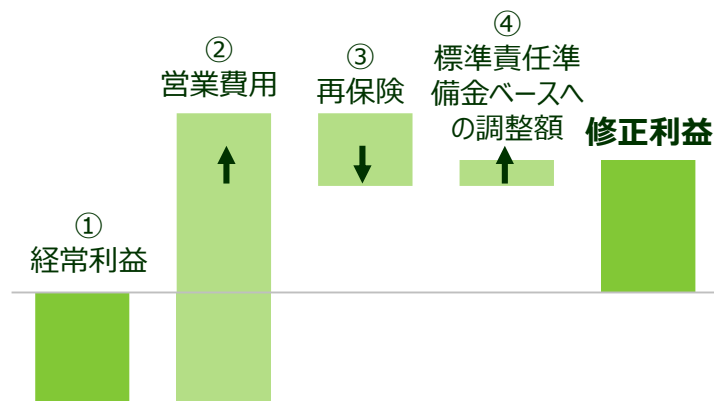
修正利益の解説



LIFENET

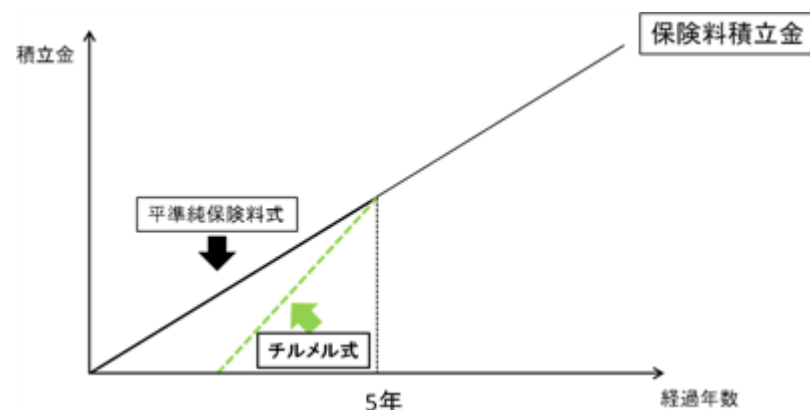
■ 標準責任準備金をベースとした責任準備金繰入額に調整

修正利益の算出



責任準備金積み立て方式の違い

現在は移行期間中、2022年度末には全契約が標準責任準備金に移行



「④標準責任準備金ベースへの調整額」の算出方法 (実額は2020年度第2四半期累計)

標準責任準備金ベースへの調整額¹
390百万円

= +

責任準備金繰入額
3,029百万円

-

標準責任準備金増加額²
2,638百万円

1. 標準責任準備金ベースへの調整額は、責任準備金繰入額について、危険準備金の繰入額の除外および保険料積立金の積立方式の標準責任準備金への修正による調整額。なお、危険準備金の繰入額は、責任準備金繰入額には含まれるが、標準責任準備金増加額には含まれない。
2. 標準責任準備金増加額は標準責任準備金の当年度残高と前年度残高の増減。標準責任準備金は、実際に積み立てている責任準備金から危険準備金を除き、標準責任準備金との差額を加算した金額。2020年度第2四半期時点の差額は721百万円。

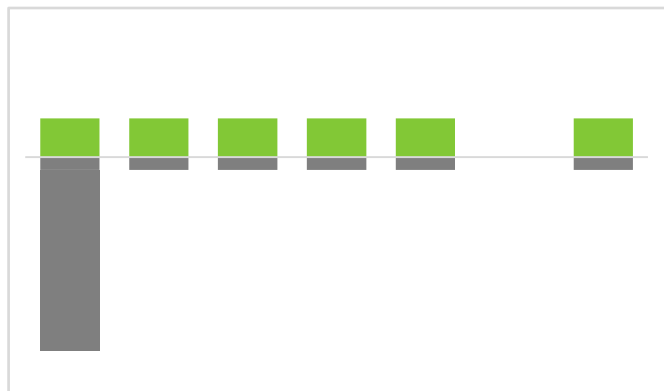
修正共同保険式再保険の仕組み

- 当年度の新契約の獲得費用の負担を軽減
- これにより、成長過程における資本の減少幅を緩和

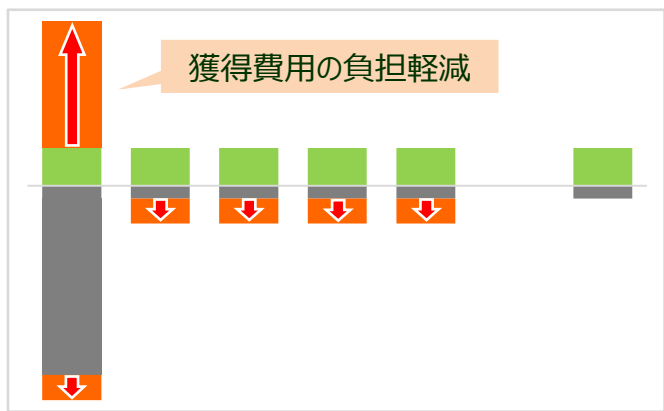
出再有無による収支構造の変化のイメージ¹

■ : 収入 ■ : 費用 ■ : 再保険の影響

出再無



出再有



初年度 2年目 3年目 4年目 5年目 … X年目

出再有無による純資産の変化のイメージ²



1. 収支構造の変化は、新契約を単年度のみ出再した場合のイメージ
 2. 純資産の変化は、新契約を複数年に渡り連続して出再した場合のイメージ